

半家バイパス開通・桝櫓の並木道を保存！

清流通信読者の皆様こんにちは！今回は四万十町川平と四万十市西土佐半家を結ぶ、国道381号の「半家（はげ）バイパス」が今月10日に全線開通したという情報をお届けします。



↑残された美しい並木道

須崎市を起点として、四万十町、四万十市（西土佐地区）を經由して愛媛県宇和島市に至る一般国道381号は四万十川中流域の住民にとって生活には欠かせない重要な幹線道路です。

昭和50年に一般国道へ昇格して以来本格的な整備が進められてきましたが、この半家バイパスが高知県側最後の改良工事となりました。

この区間は四万十川の残すべき景観区間として位置づけられて、平成6年にこのバイパスに関しての景観検討委員会を立ち上げ、様々な意見を取り入れた結果このような自然や景観に配慮した整備工事になったとのこと。

大きな2つの橋梁とトンネルで時間短縮はもとより、今まで対向車を気にしてドキドキしながら走っていた事がまるでウソのように通行することが出来るようになりました。また一方では、以前と同じく桝櫓などの木が生い茂り、これからの夏の暑い時期でも川面を吹いてくる風を涼しく感じる事ができる自然と景観がそのままの姿で残されました。

時間がない方はバイパスを、少し余裕がある方は、ぜひ旧道の並木道をゆっくりドライブしたり、車から降りて歩いてみては如何でしょうか。以前と比べて交通量も少ないはずですから、安心ですよ！



↑四万十トンネル入り口（※四万十町側）



↑半家橋（四万十市）



↑川平橋（四万十町）

トピックス

※いよいよ 道の駅「四万十とおわ」開業！！

※ポスターのキャッチコピーより



↑この看板達が目印！

今度の日曜日、7月1日に四万十町十和川口に道の駅「四万十とおわ」がオープンします。

県内で21番目、四万十町内では3つ目となるこの道の駅は純和風の平屋で、レストランなどからすぐ下を流れている四万十川の美しい景色を望むことが出来るようになっております。

上記で紹介した半家バイパスからすぐ上流にあり、同町の道の駅「あぐり窪川」「四万十大正」と並んで四万十町や四万十川中流域の観光や住民生活の重要拠点となることは間違いありません。

皆さん、ぜひご利用下さい！！



↑1日のオープンを待つメイン施設の外觀